

設楽ダム工事関連遺跡範囲確認調査 にしち ひがしち 西地・東地遺跡 たきせ 滝瀬遺跡

所在地 北設楽郡設楽町大名倉字西地・東地、八橋字タキセ
 (北緯35度6分40秒 東経137度32分40秒、北緯35度7分10秒 東経137度34分55秒)

調査理由 設楽ダム工事

調査期間 平成24年10月～平成24年11月

調査面積 120㎡

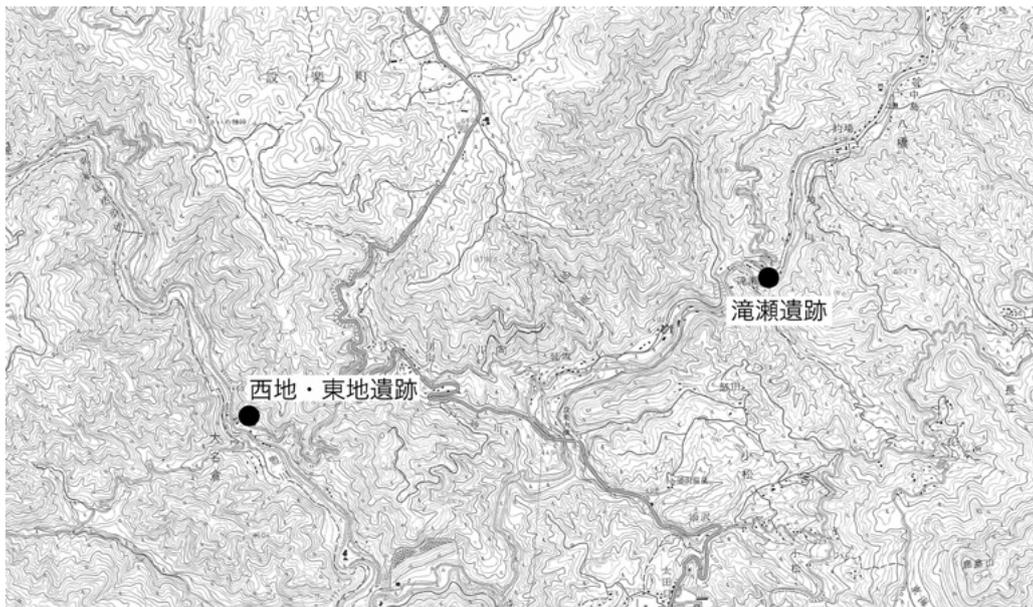
担当者 宮腰健司

調査の経過 調査は国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成24年10月～11月にかけて実施した。調査では、県教育委員会の分布調査の結果を受け、西地・東地遺跡31ヶ所、滝瀬遺跡26ヶ所のテストトレンチ(T.T.)を設定した。

立地と環境 西地・東地遺跡は標高約455～465mの寒狭川左岸の山麓緩斜面および河岸段丘面に、滝瀬遺跡は標高約420mの境川右岸の河岸段丘面に立地する。

調査の概要 西地・東地遺跡では3地点にテストトレンチを設けた。東地点では礫を多く含む谷地形の堆積を検出し、縄文土器、山茶碗、江戸時代後期の陶磁器が出土した。中地点では石垣と思われる石列を1ヶ所、石積みを2ヶ所検出したが、所属時期は不明である。戦国時代の陶器・播鉢・土師器、江戸時代後期の陶磁器が出土している。西地点ではT.T.29で3基の土坑を検出し、うち02SKより縄文土器が1点出土している。その他、古代の灰釉陶器、戦国時代の陶器・土師器、江戸時代後期の陶磁器が出土している。

滝瀬遺跡 滝瀬遺跡では、平成19年度に範囲確認調査を行った地点の西側の水田部分にテストトレンチを設けた。その結果、東側の17ヶ所のテストトレンチにおいて縄文時代早期～後期の土器やスクレーパー・叩石・磨石・石核・剥片などの石器が出土している。また7ヶ所のテストトレンチで土坑・落ち込み・高まり状遺構が検出された。さらに遺物・遺構が確認されない西側については、ゆるやかに落ち込む地形となる。(宮腰健司)



調査地点(1/2.5万「田口」)